

「産山村における特色ある取組と地域人材の活用について」

～行政・学校・地域住民が連携した取組から～

熊本県阿蘇郡産山村教育委員会

1 はじめに

産山村は、阿蘇郡の東部に位置し、熊本県の東北端、阿蘇外輪より大分県久住山麓に拓けた台地で、北東に九重の連山を仰ぎ、東西たなびく阿蘇の噴煙を望む場所にある。東は大分県竹田市に接し、北は阿蘇郡南小国町と九州横断道路で境をなし南及び西は阿蘇市に接している。大野川上流、山鹿川に沿った一帯に開け、その周辺は山林及び牧草地帯が広がる農村地域。

人口約 1,600 人の村に小学校 1 校、中学校 1 校で学級規模は小学校 8 学級 75 名（内、特別支援学級 2）・中学校 3 学級 38 名である。学校は小規模だが、学校の設置率は人口 800 に対し 1 校であり、学校が地域に果たす役割は大きいといえる。

2 学社融合の取組

平成 9 年度より生涯学習市町村モデル事業指定を受け、「生涯学習まちづくり推進事業」の取組を展開村づくりに取り組む地域の人々と共に子ども達が、活動することにより、「自分の生れた村を誇れる、考えられる子どもの育成」「子ども達にもまちづくりの一端を担ってほしい」。そんな思いから始まったのが学社融合事業である。

そんな子ども達に育つよう地域の支援、学校の協力を得て本村の独自性を生かした自然環境を舞台に各種の体験・交流を実施し、子ども達に「生きる力」が育つよう事業を展開。

3 学校を拠点とした地域コミュニティ

平成 19 年に産山小学校を新設し校舎を中学校に併設。小学校と中学校を接続している多目的室や学校図書室を地域に開放し活用している。

○地域図書室解放（平成 20 年度～）

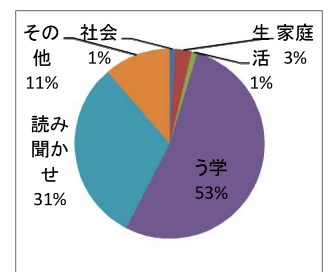
・地域の読書環境整備・充実を図るため、小中学校の図書室を地域に開放し、図書（蔵書冊数 13,000）の共有化を図り貸出を行っている。年間利用者は延べ 450 名で、1,500 冊の図書が貸し出されている。

○学校支援地域本部事業（平成 21. 22 年）

産山小中学校が平成 20・21 年度に文部科学省よりコミュニティ・スクールの調査研究指定を受けたことから、学校を支援する体制を整備するため平成 21. 22 年度に文部科学省及び熊本県の委託を受け、これまでにあった学校支援の組織等を再編し、「われら学校の応援隊」というコンセプトで 4 つの応援隊を編成し登録を進めるとともに、生涯学習講座を活用し応援隊のスキルアップを図っている。

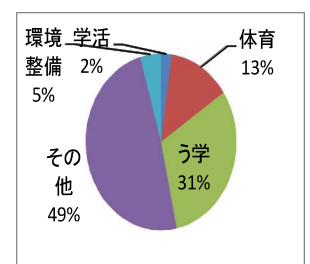
教科等	事業数	人数
社会	1	1
家庭	3	3
生活	1	2
う学	56	113
読み聞かせ	33	198
その他	12	12
計	106	329

－小学校への支援活動実績（H26）－



教科等	事業数	人数
学活	1	8
体育	6	12
う学	14	59
その他	22	47
環境整備	2	2
計	44	108

－中学校への支援活動実績（H26）－



参考

※ヒゴタイ交流－地域に根ざした国際交流理解－

昭和 63 年度（1988 年）より、産山村と中学校が一体となり始められたタイ王国立カセサート大学付属中学校との交流（通称ヒゴタイ交流）

「ヒゴタイ」とは村花のヒゴタイと「肥後（熊本）とタイ」を掛けた名前前で、H26年度現在で訪タイ 26 回、訪日 27 回を迎えた。



※うぶやま学

地域との連携や地域人材

の活用を通して、体験活動を重視した学習を展開し、子どもたちの心を豊かにするとともに、「産山」に誇りを持ち将来の自己の生き方を考えていく学習。

	前 期					中 期		後 期	
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	中 1	中 2	中 3
英会話科	20	20	35	35	35	35	35	35	35
英語科						35	140	140	140
うぶやま学	34	35	35	35	70	35	35	35	35
チャレンジ学習			35	35	35	35	35	35	35

※土曜授業（H23～）

本村の特色ある教育を推進するために必要な授業時数の確保（学習指導要領の改訂による授業時数の大幅な変更への対応）を目的として実施している。

内容

- (1) 教育課程特例校（小中一貫教育）における特色ある取組に係る授業
- (2) 学校と教育委員会が連携して実施した方がより教育効果が上がると考えられる授業
- (3) 地域人材を活用するなど、学校と保護者・地域住民等との連携・協力を図ることで、より教育効果が上がると考えられる授業
- (4) 保護者・地域住民等への教育内容の公開授業

○放課後子ども教室（平成 19 年度～）

平成 14 年度から実施された学校完全週 5 日制に対応するため「ヒゴタイ土曜塾を開設」した。平成 16 年度からは、放課後子ども教室の前身である「地域子ども教室事業」に参画し、「わいわいヒゴタイ土曜塾」・「子ども水泳教室」「放課後英会話教室」の 3 つの取組を土曜日に実施した。平成 19 年度からは、平日は「学習プログラム」を中心とした活動、週末や休日は「体験プログラム」活動として「放課後子ども教室」へ移行し実施している。

【1. 2 年生】～わくわく楽しい居場所～

地域の方の協力のもと体験活動や交流活動、学習活

動の機会を提供する。科学遊び・創作書道や地域探検など子ども達が、安心してきて楽しいと感じる居場所を目指している。

【3 年生】～こつこつ努力する教室～

学校における学力充実の取組と連携し、集中する力を育て基礎学力の一つである計算力を高めるため「そろばん」を学習している。

【週末及び休日等の活動】

開催回数 8 回 参加人数 250 名

天体観測 年 6 回

公民館での活動 餅つき交流会等 年 2 回

4 関係機関との連携

○行政・社会福祉協議会・学校との連携

学校は平成 9 年度から社会福祉協議会の「やまびこネットワーク事業」に参加しており、児童が一人暮らしのお年寄りにお便りを書き、郵便局員が配達時に安否確認を行っている。平成 12 年度に社会福祉協議会と学校の話し合いにより子どもヘルパー活動が始まった。子どもと大人（シルバーヘルパー・民生委員）が一緒になって地域福祉活動を推進している。

活動のねらい

- (1) 本村の課題である高齢化やそれに対応する福祉について関心を持ち「自分もふるさとの一員である」という意識を高めつつ高齢化社会の対応を考える。
- (2) 高齢者をはじめ、立場や価値観が異なる人とともに生きていくという考えや実践的態度を育む。
- (3) 高齢者の生きた知識や優しさ、人間の生き方を学ぶことにより、豊かな心を育む。

○住民課の子育て支援事業や保育園との連携

学校応援隊（読み聞かせグループ）の活動の場を、小学校から保育園に拡大し支援を行っている。

毎週 1 回：朝の登園時の見守り・読み聞かせ

月 1 回：子育て支援センターで手遊び読み聞かせ

今後の課題

○行政主導から住民主導へ

限られた予算と人材不足の中、余力のある間に少しでも早く住民主導方式に持っていくための人材育成が必要である。そのためにも地域住民が持つ知識やパワーを結集し、力をあわせて「ひとづくり＝地域づくり」を行い、これまで以上に地域住民の出番を多くし実際の「活動」から学ぶ取組を推進したい